第15回JCHO大和郡山病院地域協議会

開催日時　令和5年12月21日（木）14:00～15：10

場所　　　大和郡山病院　3階講義室

議題　　　1.活動状況報告

　　　　　2.意見交換

出席者　　【院内委員】

松村　正彦（院長兼患者総合支援センター長）、岡　裕也（副院長）、西川　祐史（事務部長）、久門　容子（看護部長兼副患者総合支援センター長）、

中島　有美（訪問看護ステーション看護師長）、前田　昌宏（総務企画課長）、相浦　裕文（経理課長）、寒川　美紀子（医事課長兼副患者総合支援センター長）、

中野　真伍（医療社会事業専門員）

【外部委員】

西﨑　和彦（大和郡山市医師会会長）、大野　忠彦（大和郡山市歯科医師会会長）

植松　道代（大和郡山市薬剤師会会長）、徳田　耕一（大和郡山市すこやか健康づくり部部長）、山内　英之（大和郡山市福祉部地域包括ケア推進課課長）、

寺島　奈生子（大和郡山市医師会訪問看護ステーションやすらぎ管理者）

欠席者　　松下　光伸（副院長）、野田　和世（患者・患者家族代表）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　順不同、敬称略

司会（前田総務企画課長）

・第15回JCHO大和郡山病院 地域協議会 開催について

【院長挨拶（松村院長）】

本日はお忙しい中、皆様この地域協議会にお集まり頂きありがとうございます。

おかげさまで当大和郡山病院は地域医療機能推進機構に移行して今年で10年目を迎えております。これもひとえに皆様方のご支援・ご協力の賜物と感謝を申し上げております。

さて、この地域協議会は毎年、春と秋の年2回開催させて頂いております。

本日は次第にも書いております活動状況報告といたしまして2人の医師が話をさせて頂きます。この春に着任した者で1人は糖尿病内科の岸本先生、もう1人は脳神経内科の宇佐美先生です。それぞれ当院の診療につきまして話をさせて頂きますのでよろしくお願いいたします。

今年の5月からコロナが5類の扱いに変更された中で、今年の夏にわれわれの地域医療機能推進機構の理事長から全国57病院に向けて、コロナ後の病院運営についてメッセージが発せられました。その中であったのが地域からの信頼を取り戻し、地域が求める医療の提供をすることという原点にかえることという話でありました。

当院も地域の先生方からの紹介なり、それから医療機関からの転院依頼あるいは救急隊からの要請に応える、それもすぐに応えることを病院全体で確認してこの12月から取り組んでいるところでございます。

実際その結果、入院される患者さんの数も増えており、それから救急車の受入れ台数も以前に比べると増えており取り組みの影響も出ているかなと感じております。

また、地域の求める医療の提供ということで医療機関の方へ当院医師がお伺いして当院へのご要望をお聞きして、それに応えるべく、それによって先生方なり患者の皆さんから信頼される病院となるように努めているところであります。

本日はこの地域協議会で皆様からの忌憚のないご意見・ご質問をお伺いして今後の病院運営に役立たせていきたいと考えておりますので本日、どうかよろしくお願い申し上げます。

【委員紹介】

改めて院内、院外委員の紹介。

会議・所用等のため、松下　光伸（副院長）、野田和世（患者・患者家族代表）の2名が欠席となった。

【活動状況報告】（別添資料参照）

・「JCHO大和郡山病院での糖尿病代謝内科の診療に関して」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　糖尿病・代謝内科医長　岸本　祥平

　・「脳神経内科の診療」

脳神経内科医長　宇佐美　清英

【活動状況報告質疑応答】

（大野歯科医師会会長）

　宇佐美先生にお願いしたのですけど、50代の女性で「てんかん」があるという方の歯科治療を始めたのですが、極力その方には恐怖をもたないように色々話しかけをしながら治療をしているが、一番「てんかん」症状がでないような形の治療というのはあるのですか？

　何か事前にするようなことってあるんですかね？

　話しかけしながら治療はしているんですがね・・・

（宇佐美脳神経内科医長）

　ありがとうございます。先生がおっしゃるとおり、患者さんごとにどんな時に発作が起こりやすいかは、結構だいぶバリエーションがございまして、ストレスでそうなる人もいれば、例えばテトリスをやっている時に起こるとか、お風呂はいってシャワー浴びたら起こるとか、まずはそういう人がどんな時に起こりやすいか把握して、それを避けるという方法からやることがいいと思いますが、全体的にどれが良いかというとなかなか難しいと言い難いとこかなと思います。

（大野歯科医師会会長）

　その方は定期的に病院へ行って、薬を飲んで起こらないような方なんですけど・・・

（宇佐美脳神経内科長）

　それであれば、ほぼ問題ないと思います。薬自体は1個の薬で6〜7割の方はほぼ止まるといわれているので、基本飲んで安定していますとの事であればまずは大丈夫と考えていいと思います。

（大野歯科医師会会長）

　ありがとうございます。

【意見交換】

（西﨑医師会会長）

　前回は副会長の立場で会長の代理で参加させて頂きました。

　前回かなり厳しく話をさせて頂いたので、今回はあまり申し上げる事はないのですけれども、われわれ開業医の立場もそうなのですけれども、人口は減っているし、高齢層は横這いですけれども、病院としては多分患者さんを増やさないといけないと思うのですけれども、限られた患者さんを他の病院から奪うしかない訳で、われわれ開業医もそれは同じでして、他の病院に行かずに大和郡山病院に患者さんが来るように頑張って頂きたい。

この病院で治療を受けたいという患者さんが増えるようにして頂きたいと思います。と

いうのは、この病院に紹介したくても患者さんから大和郡山病院がかかりつけだったけれども病院に電話したら断られたとか、周りで良い評判を聞かないとか、そういう風なことを言われる訳で、この度、西和医療センターが斑鳩町に移転しますし、総合医療センターはご存知のとおり大和郡山市との境に出来ておりますし、大和郡山病院にとっては厳しい状況だと思うのですけど、頑張って頂いて、大和郡山市の二次救急とかあるいは入院治療の柱となる病院として頑張って頂きたいと思っております。

　一つだけ苦言を申し上げるとすると、日中はいいのですけれども、夜に電話すると事務当直が出るのですけど私が電話して事務当直と話しをするのが、極めてストレスでして医学用語のわからない人間に何故、医者が説明しなければいけないのだろうと思うわけです。

　先日も電話をしたら、何回も聞き直されるんですね。医学用語を言ってもわからないから仕方がないんですけど、「返事は？」と言ったら「お待ちください」と言って、たぶん先生は診察中だったと思うですけれども、ずっと待たざるを得ない。「すぐ来てください」という病院にわれわれはどうしても紹介をするという事が一つ、それから紹介した後のお手紙ですけど、一番簡素的なと言ったら失礼かもしれませんけれども簡単すぎるような紹介状がこの病院は多い。われわれは色々な病院を紹介するのですけど一番紹介状が遅くて、一番簡単すぎる紹介状がこの病院なのです。なので、市内の診療所の先生方は色々な病院に紹介するので比べてしまうと思うのですけど、比べた時にやはり詳細な返事を頂ける病院に搬送せざるを得なくなる気持ちもわかって頂きたいと思います。今日おられる先生はきちんとして頂いています。

　頑張って大和郡山市の病院での入院治療を引っ張って頂きたいと思います。

（松村院長）

　ご指摘ありがとうございます。改善するよう改めて取り組んでいきたいと思います。

（大野歯科医師会会長）

　術前の口腔ケアの話と糖尿病疾患の話がありましたけれども歯を失うということは虫歯という事はなく、歯を失う原因として一番多いのは歯周病で、2番目が交通事故、3番目が矯正等で、虫歯で歯を失うことなどほとんどないです。

　100人の健診をして虫歯がある人は1人しかいませんでした。それくらい少ないです。

　歯周病に関する術前のケアというのが僕の方に報告があがってないのですけれども、こちらでうちの歯科医師会から出向いていうのは何件かあるのですかね？

　僕の手元にあるは、歯が動いている、入れ歯があわない、口腔状態が悪いとかで治療してほしいというのがありましたけれども、ほとんどそういう状態でありましたけれども、やはり術前の処置とか非常に大事だと思うし、また麻酔かけるため、動揺歯なんかの固定とかしておかないと抜けてしまうとかありますので、そういうケースがあったか、なかったか教えて頂けたら、われわれの参考となるとは思いますのでよろしくお願いいたします。

（松村院長）

　はい。ありがとうございます。ちょっと資料を持ち合わせてないのですけれども、以前から歯科の先生には往診のかたちでお世話なっているケースはあると思いますけど、またあとで確認したうえで、また改めてお願いいたいと思います。よろしくお願いいたします。

（植松薬剤師会会長）

　たびたび同じような事になるとは思いますが、やはり薬の不足が続いております。

　実績によって薬局への入り方とか違いますので、先生方にはご迷惑をかけると思いますが、疑似照会等の問い合わせがありましたらご協力お願いいたします。

　まだこれはしばらく続くと言われておりますのでよろしくお願いいたします。

また、病院で採用されました新しい薬や変更した薬の連絡をよく頂きますが引き続き、ご連絡頂けたら、患者さんのご迷惑にならないようにと思いますので、その点もよろしくお願いいたします。

（松村院長）

　ありがとうございます。2番目に言って頂いた薬の変更等とか連絡は充分にいっていない部分もあるかもしれませんが、薬剤部はじめ、確認してですね、それこそ患者さんのためになりますのでやっていきたいと思います。

（岡副院長）

　疑似照会に関して、うちの病院や薬剤部、医師等が迷惑をかけているという事はないでしょうか？

（植松薬剤師会会長）

　自分の所の薬局しか分かりませんが個人的には聞いたことはありません。

　こちらの病院は必ずＦＡＸで照会し、ＦＡＸで回答するシステムになっていますので、たまに返事が遅いとちょっと不安な時はありますが、こちらがお願いしたように返事は頂いております。

　あまり薬の変更はないように薬局それぞれ努力しているとは思うのですが、例えば、咳止めの内容とか数がたくさん出されるとちょっと困る事もあります。

　この前なのですが、こちらで漢方薬を60日分出されて、だいぶ困られていて、電話で「ありますか？」と尋ねてこられ、「1日、待って頂ければ何とかなります。どちらから来られます？」と聞くと「大阪です」と。

　だから「近くの薬局にはなかったのですか？」と聞くと「40ちかく全部断られました」。

　「どのように来られますか？」「バスで行きます」と・・・

　すごい大変な思いされて来たんだなと、結局、患者さんが困られるということを目の当たりして、近くの薬局さんも努力をされているとは思うんですけど、でも薬が入らないのです。実績がないと入らないのです。三カ月位、空いていると入らないんです。

　先生方がどうのこうのという訳ではないのですけど、実態はそういう薬がもうない。

　すごくこちらも努力はしていますが、ご迷惑をかけるかもしれないという思いで毎日させて頂いております。

　そこだけご理解いただけたらと思います。

（松村院長）

　ありがとうございます。薬が不足というのは、ときどきニュースでも取り上げられるが、なかなか一般の方に周知されてない。現場的には薬局は持っているのかなと印象があります。

（植松薬剤師会長）

　咳止めの薬なんかは必ず「ありますか？」と電話があります。「あります」と答えるともちろん来られますけど、それまでに何軒もやはり電話をされているみたいです。

　患者さんも困られている方も中にはたくさんいるのではないかと思います。

（松村院長）

　ありがとうございます。

（徳田大和郡山市すこやか健康づくり部部長）

　市役所ということで、市民生活レベルで先程の質疑の時に言っていた方が良かったのかと思ったのですけど、宇佐美先生の神経内科のお話の中で、「頭が痛い」、「二重に見える」という市民生活でたぶん、そういう方はたくさんいると思うのですけど、神経内科というというところのハードルが高くて、はやく情報をしいれ、はやく対応ができるというお話を聞いていたのですけれどもそういう場合は逆に市民の皆さんで、先程の西﨑先生のお話ではないのですけで、まずはかかりつけに行ってという事ですけど、直接、こういう状態が緊急になった場合は、大和郡山病院さんで直接対応はできるのですか？

（宇佐美神経内科医長）

　状態にもよりますが、緊急性が高いなと思った場合、脳卒中だと私一人で対応が難しい場合もあります。

　そういう場合は県総合医療センター等に報告しなければならないのですけど、日頃困っている症状であれば、どんどん来て頂いたら即座に対応はできると思います。

（徳田大和郡山市すこやか健康づくり部部長）

　ありがとうございます。私ども市長も踏まえ、いわれているのが情報発信の大事さという事で的確な情報をきちんと市民に伝え、的確な方向性に導くという事が一番といわれています。その後の迅速な対応という事が大和郡山市職員自身全員、まだまだ出来てないところがあります。

それは病院さんと同じで我々もきちんと対応が出来るように組織的に成長しなければならないと思っております。

　　今後ともよろしくお願いいたします。

（松村院長）

　ご意見、ありがとうございます。

（山内大和郡山市福祉部地域包括ケア推進課課長）

　大和郡山病院とは今後も引き続き、深く連携をしていきたいと思っています。

　その中で先日、大和郡山病院の看護師の方がセカンドレベルの実習という事でうちの課の方へ来て頂いております。

　その時の主な内容として「看取りについて」だったのですけれども、本市で取り組んでいる「在宅医療」や「看取り」であったり、人生会議についてどのように取り組んでいるかこの場を借りて紹介したいと思います。

　本年3月に65歳以上の方を対象に実施をした「介護予防日常生活調査」というのがございまして、病気などで長期の療養が必要となった場合に在宅で療養を希望する人が68.9％、約7割でございました。ただその多くの方は、実現が難しいと考えておられて、その理由で最も多かったのが、「家族に負担がかかる」というところです。現在、在宅医療だったり、在宅看護だったり、介護保険制度の中で充分に最期まで過ごしていただくという体制は出来上がっているのかなと考えております。

　今週の在宅医療介護連携推進会議におきまして「看取り」の支援についてなどの協議もしております。また、在宅医療介護連携相談支援業務を大和郡山市の医師会に委託をいたしまして、在宅での療養を希望する方の相談や在宅医療の紹介をさせて頂く業務を行っております。また、今年度は「わたしノート」という事で私の事であったり、「医療と介護」の2種類の概要を作成いたしまして、市の広報誌「つながり」の折り込みにも配布したりしています。現在、新たに「わたしノート」の本編を来年2月完成予定で今現在、作成中です。

今後も人生会議であったり、「在宅医療」や「看取り」といったところについて広く理解いただけるような取り組みをしていきますので、またご協力と連携強化について引き続き、よろしくお願いいたします。

（久門看護部長）

　うちの訪問看護ステーションと地域包括ケア推進課と何か話し合いするとか、そちらに出向いて何かお話を聞いて協力させていただくとか、何かありますか？

うちで在宅というと訪問看護ステーションになるのですけど、何か要望とかありますか？

（山内大和郡山市福祉部地域包括ケア推進課課長）

　今はそのような機会があまりないので、今後はむしろ、こちらの方もお願いしたいと思いますし、交流をしていきたいと思っております。

（寺島訪問看護ステーションやすらぎ管理者）

　わたくしたち、訪問看護ステーションやすらぎは24時間、緊急対応等させて頂いているステーションなのですけど、1番の緊急の場面って、すごく切迫していて、その時に主治医の先生や開業医の先生たちは、すごく心頼りになるんですね。

　私も郡山市の訪問看護ステーションで働いて約3年になるのですけど、当初は大和郡山病院に緊急で連絡しても、断られることがありましたが、ここ最近は受け入れてくれる事が多くて、心強いなと思っています。

　その中で医師会長がお話されたように、電話は繋がるのですけど待つ時間が結構長くて、その間に緊迫している場面があったりすると、その時は看護師が第一に駆けつけているので、電話を待っている時間がすごく長く感じます。

　また、直近で先週、大和郡山病院に入院された方が退院当日にちょっと調子が悪いまま帰ってこられて、帰りの介護タクシーも乗れない状態で帰ってこられて、何で退院の時に病院で言わなかったの？と家族にも話をしたのだけれども、看護師さんを呼んだらいいかなと思ってという事でやすらぎに連絡が入りました。実は退院当日は患者さんの状態や先生に指示書によって入れる場合と入れない場合があるんですね。特別管理加算というのがあり、ストマをつけていたりするような特殊な方であれば退院当日でも訪問看護が入れる事はあるのですけど、ちょっと入れない状況の方もおらます。

この方に関しては、退院当日の日は病院で状態管理をしている事を家族に伝え、郡山病院に連絡したらすぐに戻る形で、入院継続という対応をしてくれましたが、家族には退院当日の事は病院だよと伝えたところ、郡山病院はなかなか電話が繋がらないと言っていました。時間帯によっては、繋がり難いかもと話しはさせて頂いたんですけれども、電話が繋がった時の安心感は非常に大きいものですので、そのあたりの対応をお願いいたします。

（松村院長）

　ありがとうございます。まず退院当日は病院で対応することが当然であり、そういう状態でない形で帰っていただくがことが当然ですので、お気づきの件がありましたら教えて頂けたらと思います。

　電話に件については、内部でも検討はしており、どうしても繋がり難いという問題に関しては聞いている部分はあるのですけど、そういうお声がある事も踏まえ病院として対応を考えたいと思います。

【閉会挨拶（岡副院長）】

　本日はお忙しいところ、大和郡山病院地域協議会にお集まり頂きましてありがとうございます。

　先程、西﨑先生や訪問看護の寺島さんから厳しいご意見等がありましたが、一応、充分に理解しているつもりではありますが、西﨑先生は当院のOBでありまして、前の医師会長の松本先生も当院のOBという事で愛のムチではないですけど厳しい事も言って頂いております。

　わたしも昔、奈良社会保険病院時代に勤務していた時期があり、その頃は確かに郡山の市民病院という位置付けを自負しておりましたし、市民の方の信頼も今よりは高くて、市民病院ではないですけど、そういう存在として慕われていたような印象があります。

　ただ、ご指摘がありましたように最近は、「お断りをしない」という事はうちの病院のひとつの理念なのですけど、有名無実というか形だけになって断り放題、宇佐美脳神経内科長が来る前までは、「意識障害」等、ほとんどフリーパスで断っていたとかという時代もありました。

厳しいご意見も頂くのは当然だと思いますが、先程、院長も言われていたように「これではいけない」という事は職員・幹部、自覚しておりまして、断らない医療や地域の開業医・住民からの信頼を回復するべく努力していきつつある段階でございます。

　まだまだ至らないところもありますし、西﨑先生は古巣という事で愛のムチで言って頂いているのだと良いように解釈していますし、西﨑先生は去年、医局会に来て頂いて当院の医師全員に対して講義を1時間くらいしてもらい、その時も昔の市民病院と違って最近少したるんでいるのではないかという事を言ってもらって、それから1年たってもあまり変わってなかったのですが、最近少しずつ変わるように努力はしています。コロナの事に関しても出来ることはさせてもらっているつもりですので、今後とも当院へのご支援、よろしくお願いします。

　本日はどうもありがとうございました。

以　上